# ビニールカーテン、外した？残した？

## 51社を調査、「今も設置」は47％

### 5月より5類に

政府は5月の連休明け（8日）から、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけを「2類相当」から季節性インフルエンザと同じ「5類」へと引き下げた。これを受け、レジに設置していた飛沫防止のためのビニールカーテンやシート、パネル等をコンビニやスーパーが撤去する様子が報道された。

▲2020年の春からビニールカーテンを設置していたこの店では、もう取り外したという

**■ク店のカーテン率は高い!?**

そんな中、読者から「みなビニールカーテンどうしてるのかな？」との質問があり、さっそく記者の自宅（横浜市）近くにあるク店とコンビニ等を覗いてみると、セブンイレブン、ローソン、ファミリーマートの大手コンビニはすべて、「ビニールカーテンなし・マスク着用」だったのに対し、ク店はその日に確認できた4社とも「ビニールカーテンあり・マスク着用」であった。

そのため、「他の業界と違って、ク店はビニールカーテンを外すことに相当、慎重なのか？」との疑問を抱き、記者のSNS等も活用して調査を拡大。その結果、51社の様子が分かった。なお、複数店舗を持つ業者の場合、「スーパー等の意向で、店ごとに対応が異なる」とのケースもあったが、その業者の基本的な取り組みでカウントしており、51社＝51店舗ではない。

◀飲食店でもビニールカーテンの撤去が進んでいる（撮影場所・横浜駅前）

51社のうち、取材した時点（5月19～24日）でカーテンを設置していたのは24社で、割合にして47％。設置していなかったのは27社・53％だった。ただし、設置なしの27社のうち、「もともと設置していない」が5社あり、コロナが落ち着いたため撤去したという数（22）と、引き続き設置している数（24）は、ほぼ同じとなる。

どうやら記者の住むエリアでは、たまたま設置率が高かっただけのようだが、「スーパーのレジでは撤去済みだが、そのクリーニングコーナーにはある」ケースは珍しくない模様。

撤去した時期は、やはり5類に移行した「5月」が圧倒的に多かったが、「3月末」や「4月」に、「今回聞かれたことがきっかけとなり、今日外した」との声もあった。

マスクについては、3月からのルール通り「個人の判断」とするところが大半だが、カーテン撤去済みのスーパーやコンビニでも着用率は、ほぼ100％。先のク店51社でも「マスクなし」との回答は5社にとどまり、いずれも個人店であった。

**■最近、近くでクラスターが発生！**

一方で、「つい最近、近くの老人ホームで約30人コロナになった」という東北の業者もおり、そこでは「ビニールカーテン、消毒剤自動噴霧器、マスクは、未だに三種の神器として活躍している」そう。コロナは完全に終息したわけではないのだ。

また、記者の自宅近くの大手コンビニ3社は全てカーテンなしだったが、他の地域も含めると、セブンイレブンはカーテンありが目立った一方、ローソンではカーテンありは、見つからなかった。地域差についても、「カーテンありのセブンの向かいにあるファミマにはカーテンがない」など、今一つ傾向がつかめなかった。

さらに興味深かったのが交番で、やはり記者の自宅近くは、以前はカーテンがあったが、今はなかった。しかし、同じ区内で隣町の交番には、まだあるのだ。そこで、神奈川県警に問い合わせたところ、「設置や撤去は署長の判断に一任しており、その交番が繁華街にあるか等で決めているのでは」とのことだった。

最後に、今回の調査で最も印象に残った声を紹介する。

「当店では、まだ外していないが、あす外すかも知れないし、まだ先かも知れない。その理由は、一人でも不安なスタッフがいれば『世の中が外すから』の単純な理由で外すべきではないと考えているから。それよりも、この3年間に、改善に改善を重ねた『コロナ禍』でも『アフターコロナ』でも通用する接客を続けることが最優先だと思う。感染対策は、あくまでもその中の一つ。」

なお、この店では「繁忙期の商況も、コロナ前にほぼ近づいて来た。一つ一つ地味に積み重ねて来たことの結果が少しずつ身を結んでいるようだ」とのことだった。

## 3月の洗濯代19％増

### 前年超え12か月連続に

このほど発表された3月の1世帯当たり平均の「洗濯代」支出（総務省統計局・家計調査＝二人以上の世帯）は、前年同月比19・2％増（77円増の478円）だった。前年を上回るのは、これで12か月連続、2ケタ増は6か月連続となっている。今年1～3月までの累計は、20・3％増。

3月と言えば、政府によってそれまで「屋外では原則不要、屋内では原則着用」とされていたマスクに関して、13日以降、「着用は、個人の主体的な選択を尊重し、個人の判断が基本」に変わるなど、コロナ対策が緩和された時期であり、そうした動きに合わせて人の動きが活発化。加えて、「月平均気温平年差は、北日本と東日本でプラス3・4℃、西東日本でプラス2・6℃で、1946年の統計開始以降で3月として北日本と東日本で1位、西日本で1位タイの高温となった」（気象庁）ことも、春の衣替えを後押ししてくれたようだ。

勤労者世帯の3月も11・7％増（55円増の525円）で、3か月連続2ケタ増となっている。

## アンドオンの孫の手勉強会

### 6月は22日に

販売促進完全代行サービス『クリーニング屋さんの孫の手』を展開するアンドオン㈱では、ク店経営に役立つ勉強会を孫の手メンバー限定で行っているが、次回は6月22日（木）に開催する。時間は15時から。

今回のテーマは、意外と知られていない「法人保険の話」。専門家を講師に招き、Zoomにて実施するので、店舗や工場から気軽に参加できる。

「保険を正しく活用されていますか？ 保険は補償を受けるだけのものではありません。節税・福利厚生・資産運用などにも活用できます。意外と知られていない保険活用のマル秘テクを孫の手メンバー限定で全て公開します！」と同社。詳細は、TEL03・3501・3300まで。

## 4年ぶりのリアル総会開催

### 充実した商品群を構築

かなめG

かなめ流通グループ（全国クリーニング資材卸商協同組合、船木春男代表）では、2023年（第36期）通常総会・情報交換会・研修会を5月11日に都内で開催。同グループの総会はコロナ禍になって以降、Zoomを活用しながら、来場は理事のみに限定するなどしてきたが、今年は組合員や賛助会員など約50人が参加して賑やかに行われた。

船木春男代表

冒頭にあいさつした船木代表は「今日は4年ぶり皆さんとお会いできて、うれしく思う。コロナはようやく落ち着いてきたが、多くのクリーニング店はコロナ前の数字には戻っておらず、当グループも苦しい状況にある。ますます真価が求められる時代になるので、我々自身も進化・変化しながら業界を盛り上げていきたい。皆さんにも一層のご協力を賜りたい」と述べた。

昨年度の同グループ人気商品ランキングのトップ3は、「ニンジャウエット」「洗濯槽快」「ソフターK―1」で、前年度と全く同じ。今年度はこれらの人気商品のほか、オリジナル商品の開発にも注力し、充実した商品群を構築していく。組合員数についても、現在の32社からの拡大を目指す。

**■都丸氏が理事に就任**

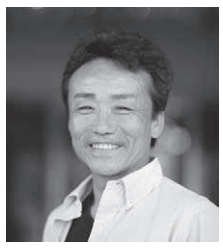
なお、今期より新たな理事として、三洋商事㈱（本社・群馬県前橋市）社長の都丸聡氏が就任した。

総会後には賛助会員を交えての情報交換・新商品紹介に研修会を実施。研修会では、家事代行サービス・ハウスクリーニングサービス大手の㈱ベアーズ取締役副社長・髙橋ゆきさんが「人を幸せにするサービス」をテーマに講演を行った（講演の概要は7面）。

## ハヤカワ・榎波寛治氏死去

### 福井のかなめ会員

福井県のかなめ会員機材商、㈱ハヤカワ（福井市大願寺）代表取締役社長・榎波寛治（えなみ・ひろはる）氏が4月27日、死去。享年55歳。葬儀は4月30日に福井市西方のはくれんアスピカホール東部にて執り行われた。



榎波氏は2020年度から当かなめ流通グループ（全国クリーニング資材卸商協同組合）の理事を務めていたほか、福井市倫理法人会の副会長、さらは趣味であるサッカーではJFA審判資格を取得するなど、公私で幅広い人脈があり、葬儀には多くの友人・知人が参列し、故人との別れを惜しんだ。

なお、先日行われたかなめ流通グループの総会では、故人を偲び黙とうが行われた。

## 短信

**▼移転**

㈱アサヒ製作所（杉本貴広社長）は、4月1日付で本社を左記に移転。〈新住所〉〒103―0027 東京都中央区日本橋2―3―4日本橋プラザビル4階、TEL03・5299・4616、FAX03・5299・4615（TEL、FAXとも新番号）

**▼リネン協、14日に総会**

一般社団法人 日本リネンサプライ協会（山田修会長）では、令和5年度通常総会を6月14日（水）に東京都港区の第一ホテル東京にて開催する。